

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書5章27～32節＞

1 レビはなぜ主の一言で何もかも捨ててイエス様に従ったのか？

この出来事はルカ、マタイ、マルコ全てに載っています。これを読んでもまず思われることは、イエス様が言われた一言「私に従いなさい」を聞いて、レビはなぜすぐに「何もかも捨てて」(28.11も)従えたのかということでしょう。これには徴税人や罪人が何か関係しています。

2 徴税人や罪人が持つ意味とは？ イエス様は彼らの側に立つお方！

ファリサイ派の人々や律法学者は、イエス様たちがレビたち徴税人や罪人(遊女など)などと一緒に食事をしているのを見て批判しました。この人たちは当時のユダヤ社会においては、律法に反し社会秩序を乱す良くない人々とみなされていた人々でした。超税人は今日の税務署の人とは違い、神殿ではなく支配国ローマに税を納める仕事に就き、私腹を肥やし、人々から嫌われていました。罪人と呼ばれる人々も同じでした。しかし、イエス様は彼らと食事を共にされたのです！ 彼らの側に立たれたのです！ このことが十字架の死を招き、同時に私たちの罪の赦しをもたらしたのです。レビはこのことにいち早く気づく恵みに与った人なのです。レビたちがなぜ人嫌がる仕事に就き、それをし続けていたか？ イエス様とは、それを思いやることのできるお方なのです(ヘブライ人への手紙4:15)。それにレビは気づき、「この方なしの人生はもう考えられない」と思い、立ち上がったのではないのでしょうか？！

3 罪人とは誰か？ 全ての人のために来られたイエス・キリスト！

ファリサイ派の人々と律法学者たちはそれに気づきませんでした。彼らは「健康な人」「正しい人」であり、「悔い改め」に「招かれない」人々なのではないでしょうか？ 彼らが自分は健康であり正しいと思っているという意味ではそうであり、しかし、その彼らが自分の間違いに気づいたなら「悔い改めに招かれている」人々なのです。ですから、私の言葉で言うなら、全ての人が悔い改めに招かれており、悔い改める可能性を持つ「可能態(体)」なのです！ 神様はイエス様を通して全ての人を救いに招かれているのです！ あとは私たちがどうするかです。まず、主の体なる教会に加わって神様にお応えしていく(洗礼の意味)、それが聖書が示す「悔い改め」の内容なのです。もう一つは説教で。